

第 30 回東日本大震災ボランティア

「ボランティアワークキャンプ from 宇都宮 to 宮城」 高校生被災地復興応援プロジェクト

今回は平成 25 年 8 月 31 日（土）～9 月 1 日（日）の 2 日間、被災者支援のほか、東日本大震災の記憶を再度振り返り、これからの地域社会づくりの担い手である高校生を対象にボランティア活動を通じた自己有用感の創出と、学校の枠を超えた高校生相互のネットワークづくりも目的として、宇都宮市社会福祉協議会と宇都宮大学学生ボランティア支援室、UP（宇大生プロジェクト）で宮城県仙台市（8 月 31 日）、東松島市（9 月 1 日）において、瓦礫撤去や仮設住宅支援を実施しました。

参加者は宇都宮大学生 15 名、栃木県内の高校生 13 名、宇都宮市社会福祉協議会 7 名の計 35 名でした。

一日目は仙台市若林区の沿岸部のビニールハウス内の草取りと瓦礫の撤去作業及び荒浜区の慰霊塔見学と、その活動の振り返りを行った。

二日目は、東松島市内の仮設住宅で夏祭り交流会を行いました。クイズ大会、ビンゴゲーム、屋台では、かき氷、わたあめ、輪投げ、風船ヨーヨーなどを無償提供し、仮設住宅の住民や現地の高校生、東松島社会福祉協議会の方々と楽しく交流した。かんぴょうダンスは栃木にちなんだもので、ビンゴ大会では宇都宮大学のグッズをお配りして、UP についてのアピールもした。

お昼ご飯としては、宇都宮の名物、餃子を一緒に楽しんでもらおうとスープ餃子を提供、海苔巻づくりでは、栃木の特産品であるかんぴょう、また東松島市でとれたきゅうりを使用して、東松島市と宇都宮市で食のコラボレーションをした。最後に、夏祭りに参加した現地の方々も含め協力いただいた沢山の方々と記念写真を撮り、夏祭りは終了した。そして集会所で、今日の素晴らしい思い出を後に思い出せるように現地の高校生とお互いにメッセージを書いたフラッグを送りあった。

